

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-80691

(43) 公開日 平成8年(1996)3月26日

(51) Int.Cl.⁵

B 4 2 D 5/04

識別記号

庁内整理番号

B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-218665

(22) 出願日 平成6年(1994)9月13日

(71) 出願人 000003193

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1丁目5番1号

(72) 発明者 西山 貴司

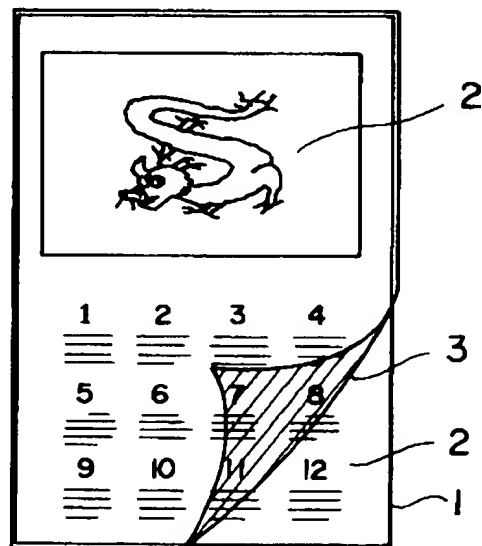
東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(54) 【発明の名称】 芳香カレンダー

(57) 【要約】

【目的】 芳香カレンダーにおいて、芳香性等を持ったインキを用いて、文字部または絵柄部を印刷することにより、従来のカレンダーの外観を変えることなく芳香機能等を持たせることができる芳香カレンダーを提供することを目的としている。

【構成】 カレンダーの文字部あるいは絵柄部を、芳香性および/または消臭性を有するインキで形成し、カレンダーの表面または裏面にガスバリアー性を有する透明フィルムを積層したことにより、従来のカレンダーの外観を変えることなく芳香機能等を持たせることを可能にしたものである。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】文字部あるいは絵柄部を、芳香性および／または消臭性を有するインキで形成してなることを特徴とする芳香カレンダー。

【請求項2】カレンダーの表面および／または裏面にガスバリアー性を有する透明フィルムを積層してなることを特徴とする請求項1記載の芳香カレンダー。

【請求項3】表面に文字部あるいは絵柄部を、芳香性および／または消臭性を有するインキで形成し、裏面にガスバリアー性を有する樹脂を積層してなるカレンダーを数枚重ね合わせて上部を綴じたことを特徴とする芳香カレンダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、カレンダーに構造的な変更を加えたりして、外観を変更することなく、芳香または消臭機能等の付加価値を持たせたものである。

【0002】

【従来の技術】従来のカレンダーは、実用性を求めただけのものと、風景写真や絵画を印刷して室内装飾用に用いられるものがある。後者の例として、カレンダーに機能性をもたせたものとして、カレンダーに芳香剤を組み合わせたものがある。このように芳香性を組み合わせたものとしては、実開昭62-94876号公報に示されるような芳香剤をフィルムで包み密閉し、カレンダー紙に全面接着し、カレンダー紙のミシン目を切ると芳香剤出口がミシン目と共に切れて芳香剤が発散するものと、実開平2-142061号公報に示されるようなカレンダーの紙固定片に網目状のケースを取り付け、その中に交換可能な芳香剤を入れて使用するものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、これらは両方ともカレンダーと芳香剤とを構造的な工夫により接合しており、機能的には満足していたとしてもどうしても後付け感があり、「芳香剤付き」という印象が強く、シャレたあるいは高級なイメージを出すには不適切であると思われる。また、これらは構造的な工夫のため、加工などの製作においても、それなりの対策が必要となる。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は上述のような課題を解決するために、芳香性を持ったインキを用いて、文字部または絵柄部を形成することにより、従来のカレンダーの外観を変えることなく芳香機能等を持たせることができる。すなわち、カレンダーの基材として紙またはプラスチックフィルム、さらには紙とプラスチックフィルムの積層体が用いられる。インキとしては、ニトロセルロース系インキなどの無臭性のインキ、またはエマルジョンタイプの接着剤等に芳香剤等の香料自体を混合した香料インキを用いるか、粒度30～400メッ

吸着性多孔質粉末で上記香料を吸着した香料微粒子をインキまたは発泡インキ中に分散させた付香性インキまたは付香性発泡インキを用いるか、芳香剤等の香料をゼラチンカプセルの中に封入してマイクロカプセルとし、これを印刷インキ中に練り込んだ芳香インキが用いられる。

【0005】用いられている香料としては、特定の効果を有するものとして、不安解消や抗うつ用の香料であるベルガモット、ラベンダー、ローズマリー、シナモン等の精油、覚醒（眠気さまし）用香料であるはっか、ユーカリ、ベルベナ、サルビア、ヒソップ等の精油などである。また、消臭剤としては酸性白土、活性白土、活性炭、シリカゲル、アルミナゲル、合成ゼオライト、モレキュラーシーブ等があり、芳香剤と同様にインキ中に混合することにより消臭インキが形成される。

【0006】そして、得られた香料インキをオフセット印刷法、スクリーン印刷法、グラビア印刷法などの手段で印刷することにより、紙にカレンダーの月日などの文字部および絵柄部がそれぞれ形成される。これらの基材の表面にEVOH等のバリアー性を有するフィルムをそれぞれ貼り合わせた後、上部を金具または樹脂等で綴じることによりカレンダーを形成する。

【0007】そこで、使用する際はがしやすいうようにカレンダーおよびフィルムの上に切取り用のミシン目線をそれぞれ設けておいてもよい。前記エマルジョンタイプの接着剤としては、酢酸ビニル系、アクリル系等任意のエマルジョンタイプの接着剤で良いが、あまり接着剤自体の匂いが強くないものの方が望ましい。

【0008】さらに、前記のマイクロカプセル中あるいは印刷インキ中に界面活性剤または強い極性基をもつ有機溶剤を混入しても良い。また、使用する際には前記の様に香料をマイクロカプセル化し、印刷インキ中に練り込んだ場合は使用時にフィルムの上から擦るなどしてマイクロカプセルを破壊し、芳香機能をもたせる。また、擦るなどの余分な作業を必要とせずに芳香機能をもたせる為に、前記のマイクロカプセル中あるいは印刷インキ中に界面活性剤または強い極性基をもつ有機溶剤を混入し、これらの溶剤の影響によりマイクロカプセルが破壊されて芳香機能等を有するようにすることができる。他に、バリアー性フィルムを剥がすことによって、インキ中のマイクロカプセルが破壊されて芳香機能等を有するようにすることも可能である。

【0009】さらに、カレンダーの場合月ごとに絵柄部を変えたものもあり、その絵柄に合わせた香料インキを用いることも可能である。例えば、四季の移り変わりを花で表したものの場合、その月々に代表される花の香料インキを用いて季節感を引き立たせることも可能である。

【0010】

3

られた印刷インキより、ページ毎に様々な芳香を放ったり、あるいは消臭したりすることができる。

【0011】

【実施例】以下に、本発明について図面を用いて説明する。

＜実施例1＞図1は、本発明の第1の実施例の構成を示す図であり、1枚もののカレンダーに関するものである。

【0012】すなわちカレンダーの基材(1)としては紙を用い、その表面の印刷部(2)に香料インキを用いて文字部および絵柄部を形成し、その上にガスバリア性を有するフィルム(3)を積層したものである。前記基材(1)の紙としてはコート紙(坪量:79.1g/平方メートル)を用い、絵柄としては龍の絵柄を形成する。この際、絵柄部(2)を形成する香料インキとしては30~60メッシュのけいそう土にはっかの香料を吸着させたものを印刷インキ中に約20重量%練り込んだものを用い、スクリーン印刷法により印刷を行った。

そして、図1に示すようにこの基材(1)の表面の上部に5mm程度の幅で酢酸ビニル系の接着剤を塗布したのち、透明のEVOHフィルム(クラレ社製)を積層し、接着することにより1枚もののカレンダーを形成する。その際、基材(1)とフィルム(2)において、接着剤で接着していない部分は静電的に接着され、香料インキの芳香が自然に揮散するのを防止している。使用する時は、この透明フィルムをはがして使用する。

【0013】なお、基材の裏面から香料インキの芳香がもれるのを防ぐ為に、基材の裏面にガスバリア性を有するフィルムを積層してもよい。さらに、7枚または13枚もののカレンダーにおいても同様であり、基材とフィルムが静電的に接着される為、上部のみを金具等を用いてとじることによりカレンダーが形成され、使用するまでは香料インキから芳香が自然に揮散するのを防止している。また、基材の裏面にガスバリア性を有するフィルムを積層して、基材の裏面から香料インキの芳香がもれること、次ページの芳香が揮散すること及び両者の芳香が混ざること防止することもできる。

＜実施例2＞図2は、本発明の第2の実施例の構成を示す図であり、7枚もののカレンダーにおいて、月により花の絵柄を変えその香りを楽しめるようにしたものである。すなわち、カレンダーの基材(1)としては紙を用い、その表面の印刷部(2)に香料インキを用いて文字

4

部および絵柄部を形成し、前記基材の裏面にガスバリア性を有する樹脂をコーティングし上部を綴じたものである。

【0014】基材(1)の紙としては上質紙(坪量:81.4g/平方メートル)を用い、絵柄としては月毎に様々な花の絵柄を形成する。例えば、1・2月はウメ、5・6月はバラ、9・10月はコスモスというように、カレンダーの1枚ごとに絵柄を変えて形成する。この時、前記絵柄を形成する香料インキとしては100~200メッシュのシリカゲルに1・2月はウメ、5・6月はバラというように、それぞれカレンダーに描かれた絵柄と同様の花の香料を吸着させ、実施例1と同様に、これらの香料を印刷インキ中に約20重量%練り込んだものを用い、グラビア印刷法によりそれぞれの月毎に印刷を行い、図2および図3に示すように基材(1)の裏面をポリ塩化ビニリデン樹脂によりコーティングし、次ページの表面と密着させ積層した後、上部に10mm程度の幅で酢酸ビニル系の接着剤を塗布し、熱圧プレスにより熱圧で固着硬化して綴じることによりカレンダーを形成する。また、前記接着剤は上部側面に塗布しても良い。

【0015】

【発明の効果】芳香性のあるインキで印刷することにより、従来のようなカレンダーと芳香剤の構造的な結合による「後付け感」をなくすることができる。また、通常のカレンダーと外観上は同一であるため芳香性というような他の機構の付加価値度がより高く感じられる。さらに、バリア性を有するフィルムをカレンダーの表面または裏面に積層し、静電気により接着されることで自然の芳香を防ぎ、また月毎の芳香を楽しむことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施例における、芳香機能付きカレンダーの構成図である。

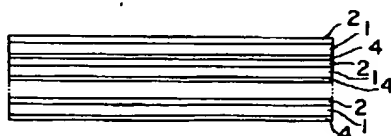
【図2】本発明の第2の実施例における、芳香機能付きカレンダーの構成図である。

【図3】本発明の第2の実施例における、芳香機能付きカレンダーの断面図である。

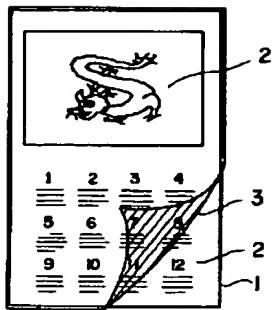
【符号の説明】

- 1.....基材
- 2.....印刷部(印刷層)
- 3.....バリア性フィルム
- 4.....バリア性樹脂

【図3】



【図1】



【図2】

